

## 第30回消費者安全専門調査会における議論の整理

平成29年 6月  
消費者委員会事務局

項目	番号	意見等
ヒートマップ について	1	ヒートマップによる事故情報の分析では、「こうした単語が頻出する」、「こうした書き込みが多い」ことによって人々の関心の強さ等は分かるが、客観的な事故の頻度や実際にどのような事故が起きたのかということについては明らかでないため、因果関係や重大性は、中を見て内容を確認する必要がある。
	2	事故情報データベースの自由記述の全ての部分を人間が読むことはできないが、ヒートマップを活用することによって、当たりを付けることができると思われる。もっとも、そこから得られた情報を公表等するには、中を見て内容を確認する必要がある。
	3	情報の分析においては、マクロな分析とミクロな分析の両方が必要であるが、ヒートマップはマクロな分析のためのものという理解で良いのではないか。
	4	ヒートマップあるいはSNSの情報について、多分に人の価値判断の部分と、事実に関することが同時に発信されていることが多いと思われる。ヒートマップ等の情報について、事実に関して把握するのであれば、そうした観点で情報を見ないと誤った判断につながると思う。また、人の価値判断などについて分析するのであれば、そういう見方で情報を見れば役に立つと思われる。
	1	(事故情報の件数の) 全国推計を行うためには、調査対象とする病院のサンプリングをしっかりと考えておかないといけない。日本では法律に基づき重大事故等について報告が行われているが、アメリカの調査結果と比較すると事故の件数が少ないので、発生した事故が全て報告されていないと思われる。事故の全数を推計するためには、調査対象をしっかりと選定することが必要だろう。
	2	世界全体でみると、病院をベースとした事故情報収集システムが大半となっている。消費者庁も病院から事故情報を収集していると思うが、病院の選定に当たって、全国推計などが行えるような設計にすれば良いのではないか。

項目	番号	意見等
病院に対する調査について	3	（病院のサンプリング調査に関して、救急医療を行っている病院を調査対象とした場合、例えば、軽度の障害など緊急性の低い事故情報は洩れるおそれがあることについて）その可能性はあると思う。アメリカの場合、CDC（疾病対策予防センター）が疾病関係を扱い、救急室で扱うものをCPSC（消費者製品安全委員会）が扱うという棲み分けがなされていると予想される。
	4	（アメリカの病院が調査に協力する理由について）金銭的なメリットだけでなく、病院側に調査に協力する意思が無いと協力してもらえないと思う。（CPSCが）病院にどうやって調査に協力してもらっているのかについては、我々（長岡技術科学大学）も調査課題としたいと思う。
	5	日本の「医療機関ネットワーク」は、病院を説得して調査に協力してもらっているという状況。アメリカのように予算を付けて情報収集することが必要と感じた。
	6	「医療機関ネットワーク」に登録されている情報について、集計情報しか外部からはアクセスができないので、どういう情報が登録されているのか、是非、見たいと考えている。
	7	日本では、（病院からではなく）メーカーや消費者から直接事故について報告があるので、詳しい事故のプロセスが分かるという点は良いと思う。
情報のコード化の重要性	—	（NEISS（全米傷害調査電子システム）における情報のコード化の重要性と自由記述の活用について）NEISSの利用拡大の重大なポイントは情報のコード化にあると思われる。情報のコード化により、エクセルでの処理等が容易になっているので利用の裾野が広がっているのではないかと。NEISSには、自由記述はあるが、自由記述を使いきれないと思う。
情報の入力について	—	（コード化した情報を入力するのは、情報の入力者の負担が大きいと思われることについて）我々（長岡技術科学大学）が雇用しているスタッフが毎日、3、4時間、2、3か月、作業をした結果、入力に慣れることができた。訓練をすれば、入力に問題は無いと思う。

項目	番号	意見等
その他	1	<p>(米国の政府部内における事故情報の共有について) 政府部内に対しては、一般には公開していない民族、人種などの情報も提供していると思われる。また、INDP (現場詳細調査) のような非公開の情報についても、場合によってはアクセスさせていると思われる。</p>
	2	<p>(事故情報の分析に関する国際的な連携について) 事故情報の分析について、各国の機関が連携した取組は、今のところないと思う。ただ、交通事故に関するデータは、国際的に流通性のある形で取り扱われている。なお、ドイツとアメリカは交通事故のデータを無料で提供しているが、日本の場合、交通事故のデータを電子ファイルで購入しようとすると、非常に高額な値段が設定されており、研究者としては無料でデータを公開して欲しいと思っている。</p>